

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年1月30日 NO.83

花ちゃん 「右の絵はどこかの段丘（だんきゅう）のようですね。」

モンタ博士「これはね、ママ下湧水の地形・地質断面図（ちしつだんめんず）だよ。」

オー君 「ふーん。なるほど。いろいろな層（そう）からできているんですね。」

モンタ博士「そうなんだ。よく気がついたね。」

国立市の大地をつくる地層は、
上から黒土層・赤土層（ローム層）
段丘砂礫層（されきそう）からできているんだよ。さらにその下には、
上総層群（かずさそうぐん）という
ものからできているんだ。」



花ちゃん 「やじるし⇨の所から水が湧（わ）き出しているんですね。」

モンタ博士「そうなんだ。地面にしみこんだ雨水は、やじるし⇩のように黒土層と赤土層（ローム層）や砂礫層を通り、その後、やじるし⇐のように流れて湧き水としてでてくるんだよ。」

オー君 「え！ちょっと待って。水は砂礫層を通った後に、その下の上総層群にしみこんでいかないの。」

モンタ博士「さすが、オー君。よく気がついたね。上総層群というのは、ねん土でできた層なんだ。だから、水がしみこんでいかず、湧き水から出るんだ。」

花ちゃん 「モンタ博士！湧き水があるのはママ下湧水だけなのですか。」

モンタ博士「これまたいい質問だね。国立市やその周辺の湧き水には、矢川緑地、常磐（ときわ）の清水（谷保天満宮内にあり）、西府湧水などがあるんだよ。ところで、

ここでモンタ博士のお友達で、縄文時代生まれの『縄文モンタ君』を紹介（しょうかい）しよう。いろいろと昔のお話にはくわしいからね。たくさんお話してもらおうね。」

みなさん！
こんにちは！
おいらの名前は
『縄文モンタ』
といいます。
よろしく！



縄文モンタ「ハイ！みなさんこんにちは。私は『縄文（じょうもん）モンタ』といいます。」

オー君 「え！『縄文モンタ？』かわった名前だな。」

縄文モンタ「私は、遠い遠い大昔のそのまた大昔から、国立第七小学校の子どもたちのためにタイムスリップしてきたんだよ。」

花ちゃん 「え！私たちのために！」

オー君 「タイムスリップ！かっこいいなあ。」

花ちゃん 「よろしくお願ひいます。いろいろと教えてください。」

オー君 「縄文モンタさん！大昔の国立はとてもよかったんでしょうね。」

縄文モンタ「もちろんさ。左の絵のような段丘（だんきゅう）の下からは、こんこんときれいな清水（しみず）がわきでていたんだよ。ところどころに小さな谷（湿地：しっち）もあり、小川も流れていたんだ。」

オー君 「そうか！水は人がくらしして生活するのに、とても大切なものでしょ。そこで、人々は段丘の下谷を大事にし、谷を守りながらくらししていたんですね。」

縄文モンタ「その通りさ。関東地方では、谷のことを『ヤツ』とよんでいてね。この『ヤツ』を守るという意味で、『ヤツを保（たも）つ』で、『ヤツホ』になり、『ヤホ』＝『谷保』になったと考えられているんだ。」

花ちゃん 「なーるほど。なぜ『谷保』という地名になったか、とてもよくわかりました。」

オー君 「とても勉強になりました。縄文モンタさんどうもありがとうございました。」

谷保の意味（「物類称呼【ぶつるいしょうこ】」という書物から引用）

江戸時代の言語学研究者である越谷吾山著。全国各地の方言語彙 4000 を、天地・人倫・動物・植物・道具・衣食・言語の7部門に分け列挙したもの。日本最初の方言辞典であり貴重な文献である。